

## 「仏参」校長講話

みなさん、おはようございます。

さて、唐突ですが……浄土真宗で「みほとけさま」と言えば「阿弥陀如来さま」のことですが、みなさんは「阿弥陀如来さま」と「お釈迦さま」と「親鸞さま」がこんがらがっていませんか。と言いますのは、中学生や高校生に質問すると、間違った答えが返ってきます。

本願寺新報「みんなの法話」に、京都女子中学高等学校の教諭であります こいけひであき 小池秀章 先生のお話が掲載されていましたので紹介いたします。

まず「お釈迦さまは何人？」と聞くと「インド人」と答えてくれます。次に「親鸞さまは何人？」と聞くと、「日本人」と答えてくれます。そして「阿弥陀さまは何人？」と聞くと、多くの場合、「インド人」という答えが返ってくるのです。きっとお釈迦さまとこんがらがっているのでしょう。

阿弥陀さまは何人でもありません。お釈迦さまと親鸞さまは、歴史上に存在した人間ですが、阿弥陀さまは歴史上に存在した人間ではありません。では、いったいどういうお方でしょう。

阿弥陀さまは、私たちを真実に導いてくださる真実のはたらきそのもので、私たちのため姿・形となって現れてくださった方なのです。こうして私たちのために人格的に現れてくださっていますが、阿弥陀さまは目で見て出会う仏さまではなく、そのお心を聞かせてもらうことによって出会うことのできる仏さまなのです。ですから、阿弥陀さまは「おられるかおられないか」と問うのではなく、「どのようなお方か」とそのお心を聞かせてもらうことが大切なのです。そして、そのお心に出会った時、私の前に新しい世界が開けてくるのです。

阿弥陀さまは、「すべての人を必ず救うという願いをたて、はたらき続けてくださっている仏さま」です。「すべての人を救う」ということは、実はとてもすごいことなのです。普通の宗教は、いいことをした人は救われるけれど、悪いことをした人は救われないのです。ところが、阿弥陀さまは、いいことをした人も、悪いことをした人も、平等に救ってくださるのです。では、どんな悪いことをしてもいいのでしょうか。

皆さんは今までに、「そんな悪いことをしたら、罰が当たるよ」と言われたことはありませんか。私たちが子どもの頃はよく親からそう言われたものです。しかし、私が悪いことをした時は、「そんな悪いことをしたら、仏さまが悲しまれるよ」と言われました。

浄土真宗は、裁きの宗教ではありません。慈悲の宗教です。阿弥陀さまは善悪を裁き、悪いことをしたら罰を与えるということはされません。善悪を超えて、すべての存在を平等に慈しんでくださるのです。しかし、悪いことをしてもいいのではありません。悪いことをしたら悲しまれます。その阿弥陀さまの悲しみ（慈悲の心）に出会うことによって、私の生き方が、少しずつ正しい方向へと導かれていくのです。

だから、親鸞聖人は、「阿弥陀さまは、南無阿弥陀仏のお念仏となって、私に届いてくださる」とお示しくださったのです。

ところで、龍谷大学が、今年4月8日『建学の精神』を「龍大 はじめの一步」という冊子にわかりやすくまとめました。もともと浄土真宗のお坊さんの学校として377年前に創立された龍谷大学と139年前に創立された平安の『建学の精神』は、その根本は同じです。

その中に、すべてのいのちを大切にする「平等」の心について、記されているところがあります。

一般に「平等」というと、かたよりや違いがなく、すべてのものが等しく一様であることだと考えがちですが、「建学の精神」でいうところの「平等」は、真理を悟られたブツダの まなこ 眼から見た平等です。

仏の光に照らされたすべての「いのち」は、各々の特徴を持ったままに光り輝いていると、ブツダは教えてくださっています。仏さまには、すべての違いを認め慈しむ眼があります。私たちもまた、その眼をいただいてみた時、各々の「いのち」がそれぞれの特徴を持ったままに、光り輝いている世界が見えてきます。正に「オンリーワンの輝き」「みんなちがって、みんないい」です。それこそが、本当の意味での「平等」なのです。

誰もが「平等」という言葉を使いますが、しかしいつも自分だけを特別扱いしていませんか。自己中心的な狭い見方を離れた、すべての「いのち」をありのままに愛おしむ豊かな心、違いがないことが平等なのではなく、それぞれの良さを認め尊重することが大切なのです。

先ほど紹介しました小池先生のお母さまが生前、次のような詩を創っておられたそうです。

みほとけさまって どんな おかた  
みほとけさま みほとけさま  
いくら おさがししても おすがた みえない  
みほとけさま みほとけさま  
いくら お呼びしても お声が 聞こえない  
じーと静かに 眼をとじた  
じーと静かに 手を合わせた  
小さな口から  
小さな 小さな声が出た  
なもあみだぶつ なもあみだぶつ  
みほとけさま いらっしゃった  
みほとけさま みつけた  
かなしいときも うれしいときも  
いつでもおそばに いらっしゃる  
どこでもおそばに いらっしゃる  
みほとけさま みほとけさま  
なもあみだぶつ

毎週一回行われます龍谷大平安での仏参で「南無阿弥陀仏」とお念仏するところに、この詩にあるように「阿弥陀さまはいらっしゃった」と言える世界が開けてくるのです。「南無阿弥陀仏」のご本願を鏡として自分を照らしてみる、つまり、仏さまの鏡に照らして自分を見つめてみる時間が本校の仏参です。

この仏参こそ『建学の精神』に触れる機会であり、そういう機会を大切にすることが、何を隠そう私たちの自己中心的な見方を変えていくことになるのです。このような機会を得ていくことで、私たちの見方や考え方に自然と変化が出てくるのです。ここに、相手の悲しみや痛みが自分の悲しみや痛みと感ずることが出来る、他人への思いやりの心が育まれていくのです。

仏参では、「南無阿弥陀仏」のお念仏を通して、阿弥陀さまのお慈悲の心を聞かせていただき、少しでも阿弥陀さまを悲しませない生き方を求めて日々を送りたいものですね。

2015年10月14日(水)